

平成19年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	重点配分	共同研究	研究代表者 氏 名	三波千穂美
研究課題	多様な知識テキストが持つ知識構成の比較分析			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
三波千穂美	筑波大学・図書 館情報メディア 研究科・講師	知識情報学	代表	
石井啓豊	同上・教授	同上	共同研究者	
宇陀則彦	同上・准教授	同上	共同研究者	
研究目的				
<p>本研究の目的は、「知識を記述した言語テキストを対象とした情報検索の新しい方法論を構築する」という上位目的の基礎段階として、「自然言語で表現されている知識テキストが持っている内部構造を明らかにすること」である。知識テキストは、科学知識においてさえ、仮説や理論だけで成り立っているわけではない。例えば、遺伝学の教科書には、仮説や理論の記述に加えて、実験の方法や目的、現象、定義、仮説の評価、棄てられた仮説、歴史的事実、理論が適用される応用活動等々についての記述が含まれることがわかっており（深沢洋子「命題間の結束関係に注目した科学知識の構造分析」2003, 図書館情報大学情報メディア研究科修士論文）、それらの記述（命題文）相互の多様な関係付けによって、教科書としての知識の伝達が実現されている。また、機器のマニュアルのような実用的知識においても同様である（恒田杏子他「マニュアルに表現された知識の構成」テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2005, p. 41-45）。</p> <p>本研究では、多様な主題や形式を持つテキストを対象として、このような自然言語で表現されている知識テキストが持っている内部構造（知識要素としての命題文とその相互関係）を比較分析することによって、多様な知識テキストが持つ共通特性と、個別主題や形式に依存した特性を明らかにする。</p>				
研究成果				
<p>知識テキストの構造的特徴の分析のため、本年度は特にマニュアルを対象とした調査を行った。様々なマニュアルを検討し、対象となるマニュアルの選定・入手を行った。次に、そのテキストを検討し、上記「研究目的」に記した深沢、恒田の分析方法および結果とも照応させ、分析方法の再検討を行い、分析方法を決定後、分析を行った。その結果、多様なマニュアルにおける知識の類型および構成には、共通する傾向がみられることが明らかとなった。また、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2007 において、マニュアル作成の専門家である複数のテクニカルコミュニケーターを対象に、テキスト構成に関するマニュアル作成者の視点についてインタビューを行った。これらの結果から、マニュアル一般の知識構成に関して、対象機器に依存しない共通特性の存在が明らかとなった。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
現在、上記の結果をまとめた論文の投稿を準備している。				